

編集発行 会
財団法人不老会
名古屋市中区栄二丁目10-19
名古屋商工会議所内
電話(052)203-4580 460-0008

◆巻頭のことば◆

「介護医療」の問題点

副理事長 渡 仲 三

今年の四月一日から「介護医療」が発足しましたが、日本人は他人に介護されるという習慣が今までなかったので、戸惑っている方も多いようです。介護医療の思想は、老人になって、家族が面倒を見切れない場合に社会的な態勢を整えて、これを支援しようという思想ですが、日本などでは、今まで家族制度に慣れて来ていて、老人が病気になるったり、体が不自由になった場合に、身内の者が万難を排して面倒を見るといふのが、しきたりでした。しかしこの場合、夫が非介護者である場合、妻が介護するか、おおかたは、嫁が面倒を見ると

医学教育のため献体し、盲人に角膜を捧げる。財団法人 不老会

不老漫録 (二六九)

翁に励まされ

名誉理事長 濱島 辰雄

私が不老会の地域支部総会に初めて参加したのが、今から二十年前の渥美郡支部総会でありました。私は入会は設立と同時にありましたが、三祐コンサルタント会社の海外開発のため殆ど国外にいて、不老会のお役にたっておりませんでした。



(通い合う握手を)

ところが不老会の霊園計画が始まって事業の推進を手伝えとのことで、初めて渥美郡支部総会にひとり出席することになりました。確か、田原の南端の警察署の隣の会場で、豊橋

長様であり、華山先生の話、わけても満鉄時代の伊藤武雄先生の郷里であることを知らされ感激したことでありました。

渥美は戦前走り廻ったので土地勘は有ると、出かけたが、協議内容については初めてで、親切に教えられたのが河合貞支部

以来何時も毛筆の懇切なお手紙をいただき励まされてきました。

この度五月十八日平成十二年度の総会に鈴木支部長様に招かれて、早朝から服部事務長の車で楽しんで出掛けましたところ、河合貞さんが、ぜひ会いたいと会場までお出掛け下され、お会いして激励していただきました。当年百二才の明治三十年生れ、前理事長より二歳年上でお元気なお姿を拝見、思わず涙を零としてしまいました。こういう人があつてこそその不老会である。

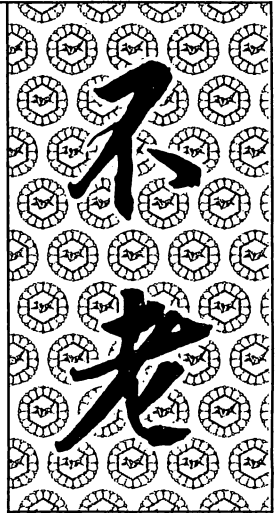
四十一年の歴史の大切さをつくづく感じたものであります。

介護保険制度が発足して、これがかうまく行けば万々歳かと思いきや、まだ数カ月しか経っていないのに、色々不協和音がおきて、決してスムーズには事は運んではいけないようです。最近の日本経済新聞のコラムに「介護保険はスタートしたが

体に触られることや、排便の世話などされるのは、屈辱かも知れない。しかし、これをやってもらわなければ、家族が全部面倒を見なければならず、嫁にしわ寄せが来るといふ図式であります。また、この保険制度は、全くただというわけには

いきません。ある人の話によれば、今までは無料で受けられた従来の福祉制度が廃止され、今度の介護保険になってから、本人の一割負担になり、今までは、一回三時間のホームヘルプを受けられたのが、経費の関係から、一回当たり、二時間のサービスに押さえるなければならないようになった。老人になるのも大変だ。」との咳きが聞こえるようです。これから日本は少子化に伴って、四人に一人は老人という時代が来るといわれ、老人になっても、人の世話にならないで、最小限の身の回りの事は自分で出来ればありがたいとつくづく思います。長野県には、「ピンピンコロリの会」と言うのが、あるようですが、これは、普段は健康で、ピンピンして働いて、寿命が来たら、「はいサヨウナラ」コロリとあの世へ旅立ちたいという会だそうなんです。こんな会に是非あやかりたいも





編集発行 会
財団法人不老会
名古屋市中区栄二丁目10-19
名古屋商工会議所内
電話(052)203-4580 460-0008

◆巻頭のことば◆

次世代への提言

常務理事 高橋秀雄

まもなく新世紀を迎えるが、今世紀を生きた老生が、自らの反省をもとに次のような提言をしたと思う。

一つは、地球の環境破壊について。

この問題は、言うまでもなく人類の生存にかかわる問題でありながら、さて我々は、どんなことを心掛けているか反省をしたいものである。

アジアのボルネオ島やフィリピンの森林喪失は日本の企業も、それにかかわっていたことは衆知の事実であって、日本で消費する木材となり経済発展に寄与しているが、その後の植林に努めることが残された課題であり、

不老漫録(二七〇)

水野甚市さんを偲ぶ

名譽理事長 濱島 辰雄

水野さんが亡くなって十年になる。久野さんとも縁に繋がっていた。久野さんは研農クラブ時代から、私は水野さんが農地開拓指導所長として、

高師の藤並に事務所があった頃からである。私は戦中高師天伯は面白い廻り、

また、大気の汚染を少なくするためCO₂の排出を減らすことが、世界各国の課題であり、経済大国の日本や米国が、その削減目標値を達成することは至難であると言われる。そこで、我々は、日々の暮らしの中で無駄な電力消費をやめるように努めなければならぬ。

例えばテレビのつけっぱなしはないか、使っていない電灯を消すとか、省エネのために留意したいものである。

九月の東海三県におきた水害は、まれにみる豪雨の結果であるが、田畑の宅地化による保水力の低下も関係している。その田畑の減少は、人口の増加と、都市への集中によるものであって、日本の食糧輸入の急増も関連すると考えられる。それ故、我々は、食べ物を無駄にしない一残飯などを

春日井支部副支部長を勤められた高谷さんが、若い身空で御主人と水野さんの下で、草深い高師で過ごされた聞き懐かしさが込み上げてくる。

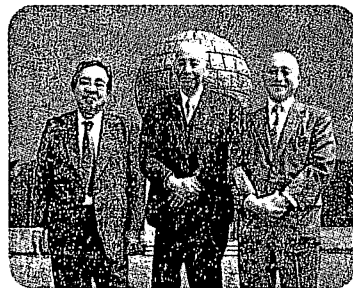
いる。課で開拓の草分けとなられた。

不老会が結成されるや先ご夫妻共入会、西尾幡豆支部の結成、副理事長、塔建設委員長としてよく理事長を補け、独特の微笑で人を反らせず難事業を完成された。

塔完成の日、高松宮の記念植樹の介添えをされた嬉しそうな姿が忘れられない。

その後、会員の増強・不老会の更なる発展に尽粹されたが、長年の労苦が重なり、医師として、次男のおられる病院に入院中をお見舞いしたのが最期であった。

平成二十一年十一月三日御成願、八十才。終世難忘の方であった。



水野さんは、三河武士の名門水野家の後裔で立志伝中の人、中央大学に進まれ、海軍に招集され、戦後、池田駒平議長に薦められ、愛知県農地開拓

ゴミとして出すというようなことはやめたいものである。次に、教育改革を考えてみたい。この問題は政府でも取り組みを始めているが、識者間で議論が盛んである。明治以後の日本の近代

が、学歴偏重の考えは、過去のものとなりつつある。

次に家庭教育について考えてみると、昨今の家庭の教育力の低下は、憂うべき状況であり、これを回復することは緊急の課題である。若者による暴力沙汰や窃盗の増加は悪い環境の影響もあるが、

父親が多忙で子どもの教育は母親任せの状態であったこと等も反省すべきであろう。この改善のためには、幼少年期の躰を厳正にする必要があると思う。

例えば、挨拶のできる子ども―家庭の中は勿論のこと外でも正しい挨拶をする躰が必要である。昨今は、中高生の喫煙なども困った問題であるが、躰のできている家庭ならば中高生の喫煙という悪習に染まることは無いと考えている。

次世代への提言と題した割には、内容の深まりに欠けてしまったが、重要な課題と考えているので、次回には、考えを明確に示したいと思う。

医学教育のため献体し、盲人に角膜を捧げる。財団法人 不老会